



ろくべん館だより

こんにちは。ろくべん館の管理人の森上です。このところ日本各地で降雪のニュースを目にすることが多くなりました。いよいよ厳しい冬がやってきたと感じています。今年の冬は大雪の予報ですので村でも倒木等による停電などが心配になります。

さて、ろくべん館の改修は順調に進んでおります。今回はろくべん館に新たに展示される「南アルプスユネスコエコパーク」についてお話ししたいと思えます。

ユネスコエコパークは生態系の保全と持続可能な自然と人間社会の共生を目的として45年前の1976年に始まりました。そして、地域の豊かな生態系や生物多様性を保全して、自然に学ぶとともに、文化的にも経済・社会的にも持続可能な発展を目指す取り組みです。

日本のユネスコエコパークは現在全国に10か所あり、南アルプスユネスコエコパークは2014年に登録されました。

南アルプスユネスコエコパーク（以降一部「エコパーク」と呼ぶ）は、3県10市町村にまたがり3,000mを超える山々が連なる急峻な山岳環境の中に様々な動植物が生育・生息する日本を代表する自然環境を有しています。また、その山麓には河川流域ごとに古来より固有の文化圏ができ、独自の習慣、食文化、伝

統芸能が残っています。



塩見岳

大鹿村では、今まで「南アルプスと歌舞伎の里」と銘打って観光宣伝をしてきましたが登山客に南アルプスを紹介する正式な場所がありませんでした。この度ろくべん館の改修を機に、多くの村民の皆さんや登山客の方にエコパークに関心を持っていただき、そこから自然を学び、また環境保全を進め、文化的にも経済・社会的にもさらなる発展を目指すため、ろくべん館内にエコパークの内容を紹介するスペースや学習ができるスペースを設けることにしました。また、登山客に南アルプスの情報提供も同時に行える機能も計画されています。全く新しい内容展示のため検討をしながら整備を進めていくこととなりますが、改修後のろくべん館で南アルプスユネスコエコパークの展示をぜひご覧ください。

（記事の一部を南アルプスユネスコエコパークのホームページより抜粋）